

第6 導入を目指す営農体系モデル

1. 水稻

現状と課題	目指すべき姿
本県の水稲は、中山間地域など条件不利地域での栽培が多く、また、担い手の高齢化が進んでいるため、作業の省力化、軽労化など経営の一層の効率化が必要となっている。	条件不利地域でも持続的に水稻の生産が可能な営農体系を確立するため、ドローンによる防除やラジコン草刈機による除草作業の省力化などを実現

作業	導入する技術とその効果	必要経費
代耕 かきん	 <p>自動操舵システム</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動で正確に作業が出来るため、大区画の長い直線操作などでも作業が楽になる。 作業の重複幅が減少し単位時間あたりの作業面積が増加（10～25%増加 ※国データ） 	自動操舵システム（後付け） ：400～2,500千円
田植	 <p>直進アシスト田植機</p> <ul style="list-style-type: none"> 集中力が必要な直進作業の疲労を軽減。 非熟練者でも熟練者と同等以上の精度、速度での作業が可能 	本体： 3,000～5,500千円
水管理	 <p>自動水管理システム</p> <ul style="list-style-type: none"> 圃場の給水等の遠隔操作や、水位・水温等の自動測定など、スマートフォン等でいつでもどこでも操作・確認が可能 見回作業が大幅に省力化(水管理に要する時間が80%減少※国データ) 	本体： 0～750千円 月額利用料（通信等）： 0.5～10千円/1台
除草	 <p>ラジコン草刈機</p> <ul style="list-style-type: none"> 急傾斜地や人が入りにくい危険な場所で、遠隔操作により、安全に除草作業が可能 作業時間（10a,水田畦畔、法面） 従 来：4時間 導入後：1時間（75%削減） 	本体： 1,000～3,500千円
防除	 <p>ドローン</p> <ul style="list-style-type: none"> ドローン防除により、中山間地域での防除作業の負担軽減と作業時間の大幅な削減が可能 防除時間（1ha,中山間地域） 従 来：5.0時間 導入後：0.5時間（90%削減） 	本体： 800～3,000千円 バッテリー： 75～250千円/1セット 講習： 250千円